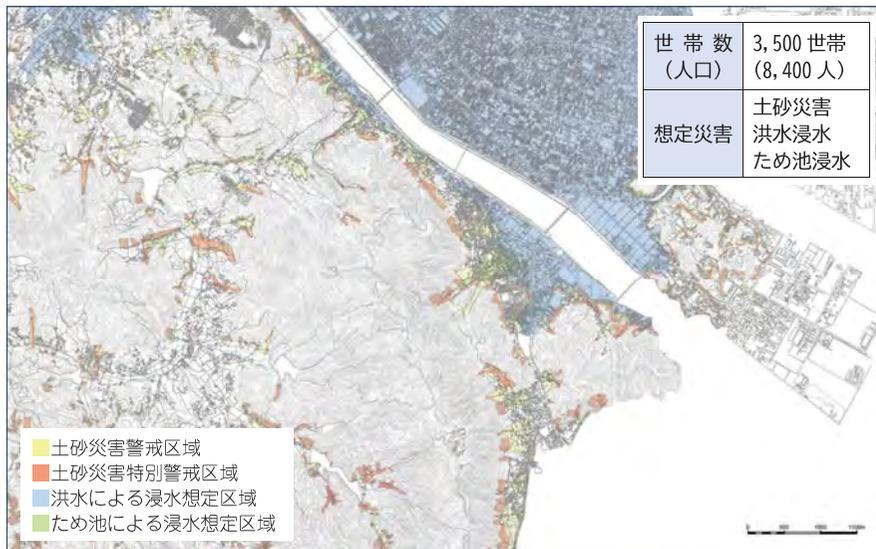


◆組織の基本情報



◆避難の呼びかけ体制（抜粋）

避難情報の入手方法		福山市防災メール/テレビ/インターネット/防災行政無線/ラジオ等	
呼びかけ	順番	自主防災協議会会長・自治会連合会会長⇒防災リーダー・自治会長⇒班長⇒班員	
	担当者不在時の対応	自治会長、防災リーダーはお互いに不在時の呼びかけをフォロー 班長不在時の場合は、自治会長、副会長、防災リーダーが代行	
	タイミング	警戒レベル3	警戒レベル4
	範囲	土砂災害警戒区域等・洪水浸水想定区域内の世帯	
	優先度	要配慮者	—
	方法	電話/戸別訪問	電話
	内容	避難所へ逃げましょう。	一緒に逃げましょう。
完了確認	—		
他団体との連携		民生委員/消防団/防火協会	

◆呼びかけ体制づくりに向けた取組

組織の特徴

- 組織の防災意識が高く、学区内の21自治会それぞれに組織が独自に定める防災リーダーを配置している。
- 自主防災協議会会長や自治会連合会長のリーダーシップが強く、組織の結束が強い。

1) 実施した取組



2) 体制づくりで明らかとなった課題と解決策

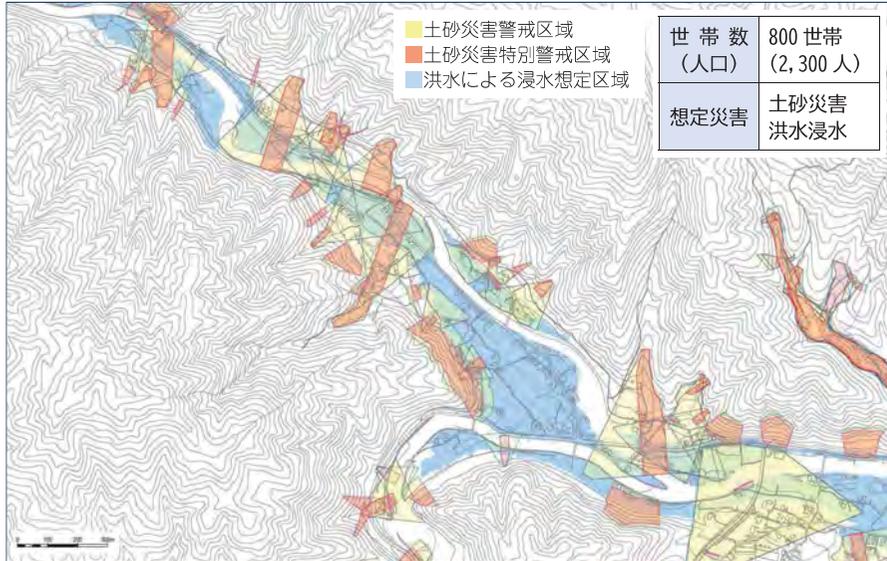
課題：避難場所の開設 複数の自治会が避難場所としている施設について、自主防災組織が鍵を所持していないため、開設にあたっては市職員の到着を待つ必要がある。	解決方法：行政との調整 市に対し施設の鍵の貸与を要望し、鍵を貸与してもらえたこととなった。自主防災組織が鍵を所持することで「警戒レベル3」発令時での避難場所の開設が可能になった。
--	---

3) モデル組織独自の取組

●連絡網の作成

災害想定区域内の居住者に効率的に呼びかけを行うために、土砂災害警戒区域等、洪水浸水想定区域内の世帯の連絡網を作成した。さらに、要配慮者の把握を行い、優先的に呼びかけることにした。

◆組織の基本情報 ※地図は上河内地区を掲載



◆避難の呼びかけ体制（抜粋） ※上河内地区の事例

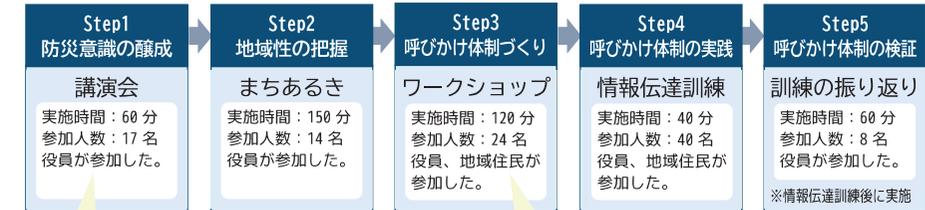
避難情報の入手方法	東広島市防災メール/テレビ/インターネット	
呼びかけ	順番	災害対策本部⇒町内会長⇒班長⇒班員
	担当者不在時の対応	代理が担当
	タイミング	警戒レベル3
	範囲	全世帯
	優先度	要配慮者
	方法	電話連絡/メール（組織独自）
	内容	発令された避難情報を伝え避難を促す。
完了確認	電話連絡の最終者が町内会長に報告	
他団体との連携	—	

◆呼びかけ体制づくりに向けた取組

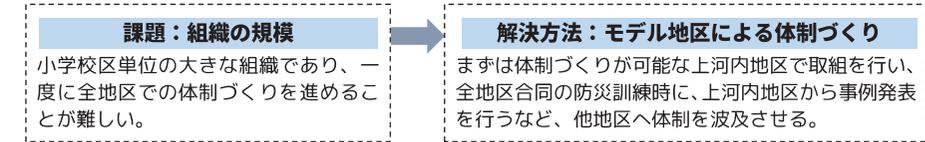
組織の特徴

- 中山間地域にある組織であり、集落が点在し、民家同士の距離が離れている。
- 防災講演会や災害図上訓練などの活動を毎年行っており、防災意識が高い。

1) 実施した取組



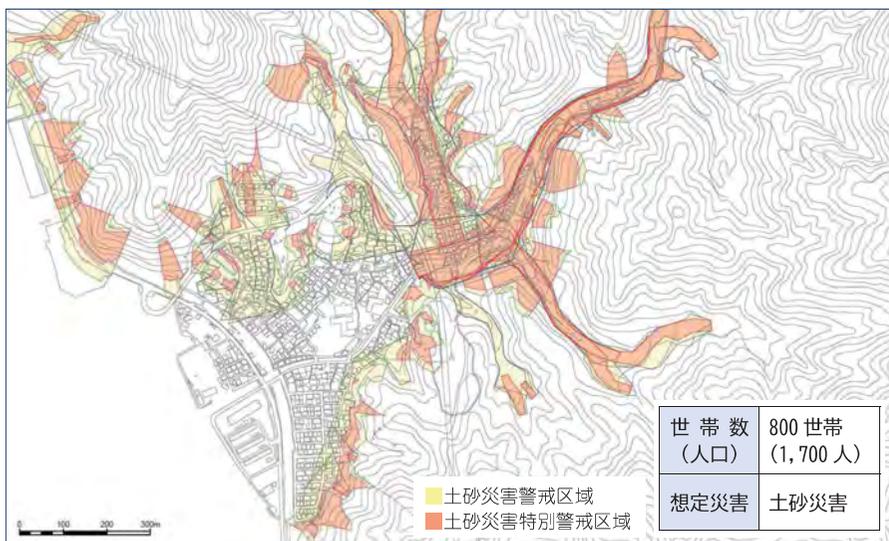
2) 体制づくりで明らかとなった課題と解決策



3) モデル組織独自の取組

- 災害対策本部の設置
大雨警報発令時に、自主防災組織の会長および役員が参集し、災害対策本部を設置する。組織として、防災情報の収集や避難者の受入体制を整える。
- 自主防災組織独自の防災メール配信
組織独自の防災メールを用い、東広島市からの避難情報などを登録者へ一斉配信している。

◆組織の基本情報



◆避難の呼びかけ体制（抜粋） ※13 町内会のうち、1 町内会を事例として掲載

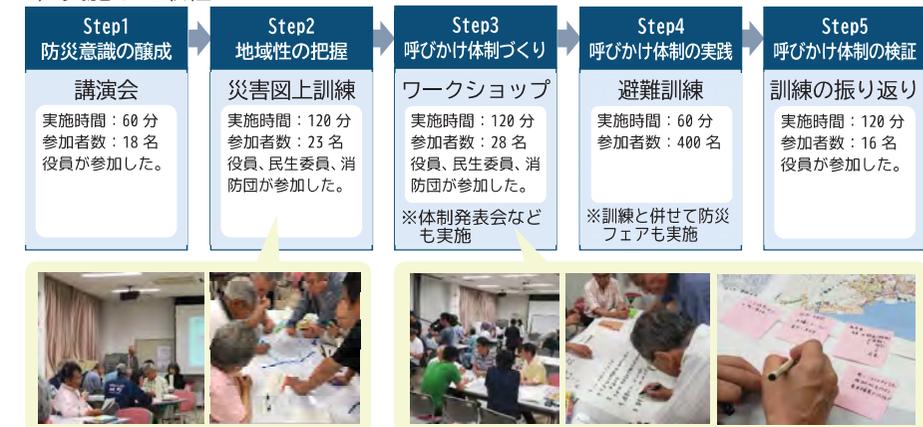
避難情報の入手方法		町から会長への電話 / 防災行政無線（戸別受信機）	
呼びかけ	順番	自主防災会長 ⇒ 町内会長 ⇒ ブロック長 ⇒ ブロック員	
	担当者不在時の対応	副ブロック長が代行	
	タイミング	警戒レベル3	警戒レベル4
	範囲	全世帯	
	優先度	要配慮者	連絡未確認の世帯
	方法	電話 / 戸別訪問 / LINE	電話 / LINE
	内容	放送に注意して避難の準備をしてください。一緒に車で避難しましょう。	みんな避難しています。急いで避難してください。
	完了確認	ブロック長が役員、または、町内会長へ報告する。	
他団体との連携		—	

◆呼びかけ体制づくりに向けた取組

組織の特徴

- 地区の大半が土砂災害警戒区域等である。
- これまでの自主防災組織の活動としては、坂町が主催する「一斉防災訓練」への参加程度であり、独自の活動はあまりできていなかった。

1) 実施した取組



2) 体制づくりで明らかとなった課題と解決策

課題①：災害想定区域の広さ
土砂災害警戒区域等に住民が多いため、早めに呼びかけを開始する必要がある。

解決方法：警戒レベル3での呼びかけ
土砂災害警戒区域等からの早期避難を促すため、「警戒レベル3」からの呼びかけを徹底した。

課題②：組織の規模
世帯数や範囲など、学区内の13町内会ごとに特徴が異なるため、呼びかけ体制の統一が難しい。

解決方法：町内会単位の体制づくり
13町内会ごとに呼びかけ体制を構築することとした。ただし共通のルールとして自主防災会長・副会長・各町内会長とでLINEによるグループを作成し、情報共有を図ることとした。

3) モデル組織独自の取組

●活動単位の細分化
早期に呼びかけを完了するため、町内会の「班」よりも小さい5世帯程度の単位（ブロック）を作り、早めに呼びかけを行い、避難ができる体制を整備した。

◆組織の基本情報



◆避難の呼びかけ体制（抜粋） ※7自治会のうち、1自治会を事例として掲載

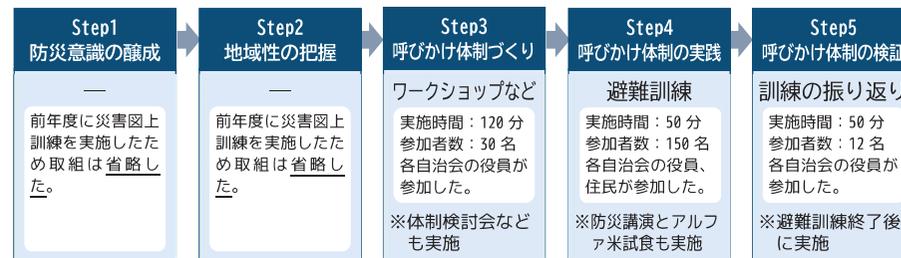
避難情報の入手方法	竹原市防災メール/市から自治会長への一斉電話/テレビ/インターネット		
呼びかけ	順番	会長⇒組長⇒各戸（会長と役員は情報共有）	
	担当者不在時の対応	副担当の代行/代理の選任	
	タイミング	警戒レベル3	警戒レベル4
	範囲	全世帯	
	優先度	災害想定区域内の世帯/要配慮者	
	方法	電話/戸別訪問	
	内容	避難情報とその内容、開設した避難所、これから起こりうる災害を伝え、避難することを促す。	
完了確認	組長⇒会長（呼びかけの順番とは逆順に報告）		
他団体との連携	民生委員/消防団		

◆呼びかけ体制づくりに向けた取組

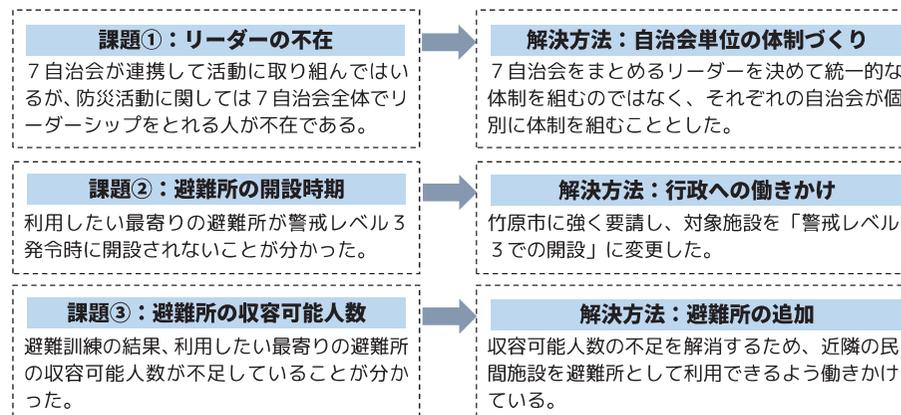
組織の特徴

- 近年は定期的な活動を行っていなかったものの、前年度に災害図上訓練を実施し防災意識は高まってきている。
- 昔ながらの集落であり、自治会の結束力は強い。

1) 実施した取組



2) 体制づくりで明らかとなった課題と解決策

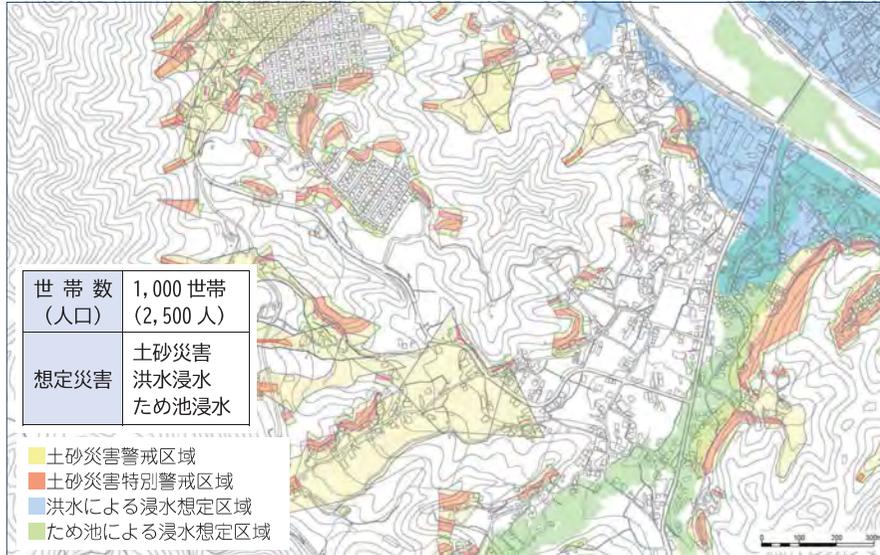


3) モデル組織独自の取組

●避難情報の入手方法の強化
自治会長が不在の場合でも滞りなく避難情報を入手できるよう、市からの一斉電話連絡に副会長も登録した。



◆組織の基本情報



◆避難の呼びかけ体制（抜粋）

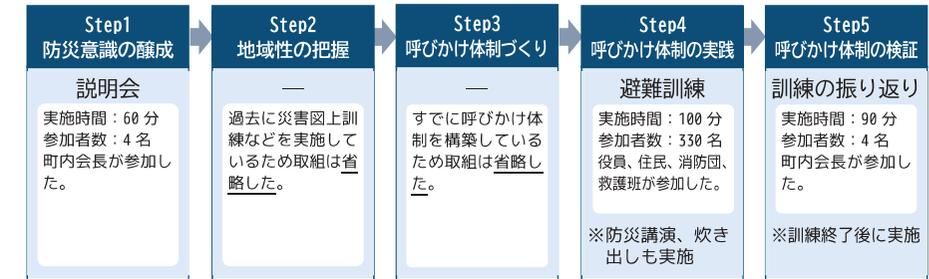
避難情報の入手方法	府中市防災メール／市から町内会長への一斉電話			
呼びかけ	順番	町内会長⇒幹事⇒組長⇒組員		
	担当者不在時の対応	町内会長不在⇒別町内会長／幹事不在⇒町内会長／組長不在⇒幹事 が代行		
	タイミング	警戒レベル3	警戒レベル4（勧告）	警戒レベル4（指示）
	範囲	全世帯		
	優先度	要支援者⇒土砂災害特別警戒区域内の住民⇒土砂災害警戒区域内の住民の順に優先的に呼びかける。		
	方法	電話／戸別訪問		
	内容	市が発令した避難情報を伝え、指定避難所への避難を呼びかける。		
完了確認	組長⇒幹事⇒町内会長（呼びかけの順番とは逆順に報告）			
他団体との連携	消防団／救護班			

◆呼びかけ体制づくりに向けた取組

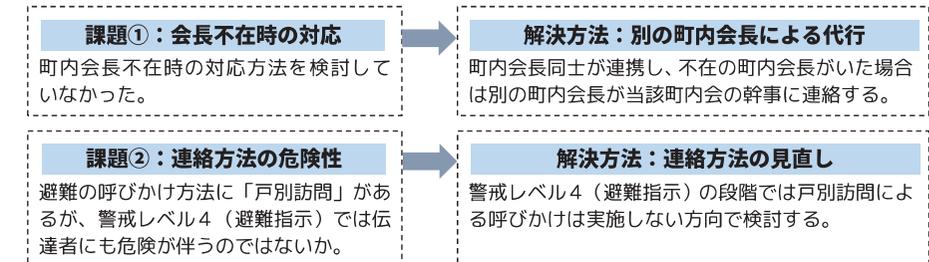
組織の特徴

- 定期的な防災活動を実施しており、防災マップを作成し地域内に周知するなど、地域全体として防災意識が高い。
- すでに独自に呼びかけ体制を整えている。

1) 実施した取組



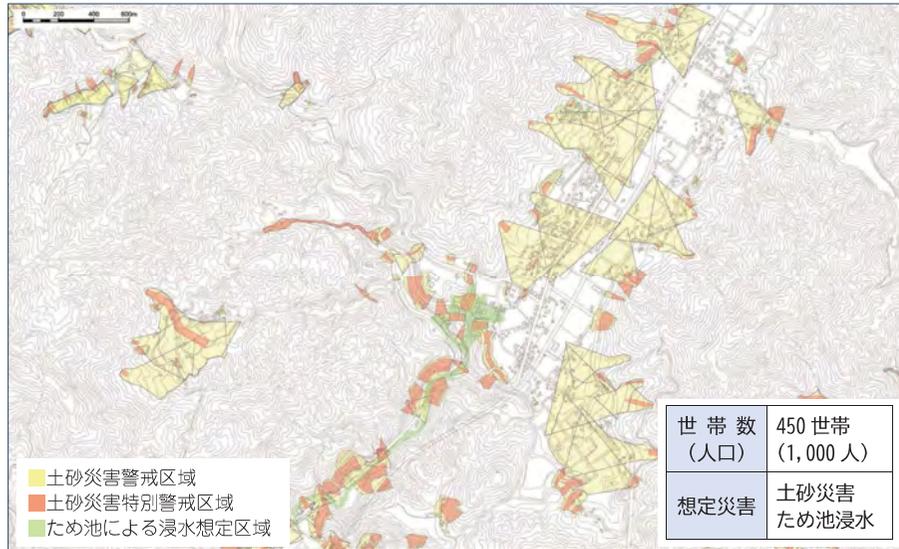
2) 体制づくりで明らかとなった課題と解決策



3) モデル組織独自の取組

- 避難行動要支援者への呼びかけ
要支援者に対し、避難を呼びかける仕組みを整えている。呼びかけの方法としては幹事が直接、要支援者の家族や本人へ連絡する。
- 他団体との連携
町内に在住する現役・退職した看護師の任意団体（救護班）と連携し、避難所での怪我人の処置等を連携する体制ができています。
- 町内会未加入世帯への呼びかけ
町内会に入っていない世帯に対しても戸別訪問で呼びかけを行っている。

◆組織の基本情報



◆避難の呼びかけ体制（抜粋）

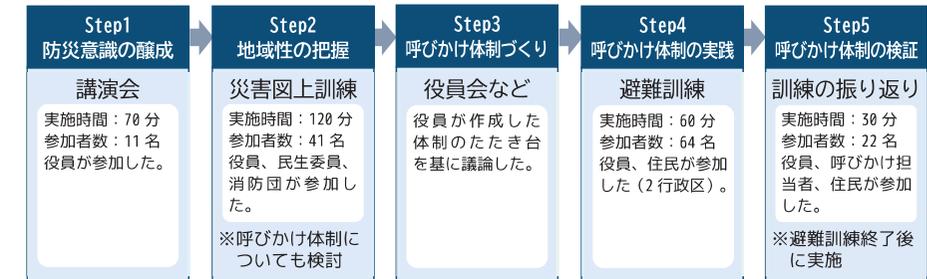
避難情報の入手方法	市からの音声告知放送 / 広島県防災メール / テレビ / インターネット	
順番	会長・副会長 ⇒ 自主防災部長・副部长 ⇒ 各行政区自主防災部員 ⇒ 住民	
担当者不在時の対応	副担当が代行	
タイミング	警戒レベル3	警戒レベル4
範囲	全世帯	
優先度	道路が寸断される恐れのある地域住民 / 要配慮者	
方法	電話 / 戸別訪問	
内容	一緒に避難しましょう。	みんな避難しています。急いで避難場所に避難してください。
完了確認	各行政区自主防災部員 ⇒ 自主防災部長・副部长 ⇒ 会長・副会長 (呼びかけの順番とは逆順に報告)	
他団体との連携	民生委員 / 消防団	

◆呼びかけ体制づくりに向けた取組

組織の特徴

- 定期的な活動はこれまで行っていなかったものの、昔ながらの集落であり、地域の結束力は強い。
- 地域の大半が土砂災害警戒区域等である上、指定避難所までの距離が遠い。

1) 実施した取組



2) 体制づくりで明らかとなった課題と解決策

課題①：避難所までの距離 地域の大半が土砂災害警戒区域等である上、指定避難所までの距離が遠い。	解決方法：早めの呼びかけ徹底・民間施設の利用 土砂災害警戒区域等からの早期避難を促すため、警戒レベル3での避難の呼びかけを徹底した。また、近隣の民間施設に避難場所として利用できるよう施設管理者に働きかけている。
課題②：組織の規模 13もの行政区で構成されているため、一度に振興会全体での体制づくりを進めることが難しい。	解決方法：モデル行政区による体制づくり まずは、体制づくりが可能な2行政区で取組を行い、役員会などで周知し、振興会全体に波及させていく。

3) モデル組織独自の取組

●名簿の作成

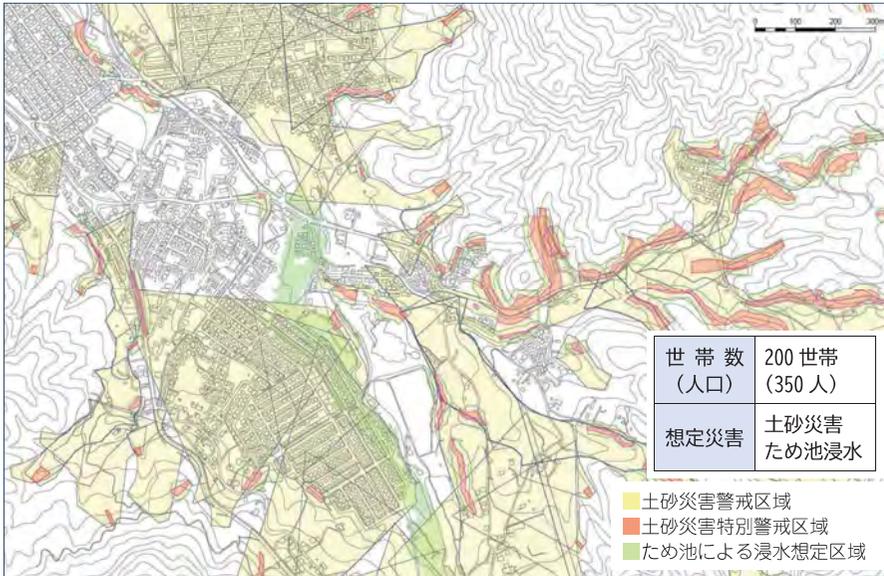
高齢者が多く居住する地域であることから、日中・夜間における支援の要否や、緊急時の連絡先、家族構成などを記載する独自の名簿を作成した。
※名簿は52ページに掲載

(行政区 班) 班員名簿及び連絡体制

班 No.	班長	班員名	No.										班員数	班長	班員数	
			避難方法		避難場所		避難経路		避難時間		避難費用					
1			自・車	自・車	自・車	自・車	自・車	自・車								
2			自・車	自・車	自・車	自・車	自・車	自・車								
3			自・車	自・車	自・車	自・車	自・車	自・車								
4			自・車	自・車	自・車	自・車	自・車	自・車								
5			自・車	自・車	自・車	自・車	自・車	自・車								

避難方法：自・車 自=自主避難できる。 車=車が必要 避難場所：自・車 自=避難の際、班員が必要なし 班員数：自・車 自=班員が必要でない

◆組織の基本情報



◆避難の呼びかけ体制（抜粋）

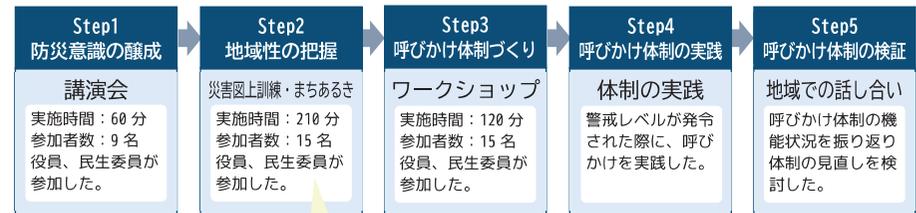
避難情報の入手方法	呉市防災メール/テレビ/インターネット
順番	会長⇒副会長・役員⇒班長⇒班員
担当者不在時の対応	会長不在⇒副会長/役員不在⇒他役員/班長不在⇒役員 が代行
タイミング	警戒レベル3
範囲	全世帯
優先度	要配慮者
方法	電話（携帯電話を含む）
内容	一緒に避難をしましょう。
完了確認	班員⇒班長⇒副会長・役員⇒会長（呼びかけの順番と逆順に報告）
他団体との連携	民生委員

◆呼びかけ体制づくりに向けた取組

組織の特徴

- 避難訓練や防災講演会など防災活動を定期的に行っている。
- 地域の大半が土砂災害警戒区域等である上、指定避難所までの距離が遠い。

1) 実施した取組



2) 体制づくりで明らかとなった課題と解決策

課題①：避難所までの距離

地域の大半が土砂災害警戒区域等である上、指定避難所までの距離が遠い。

解決方法：早めの呼びかけ徹底・民間施設の利用

土砂災害警戒区域等からの早期避難を促すため、「警戒レベル3」での避難の呼びかけを徹底した。また、近隣の民間施設との間で「警戒レベル3」発令時に要配慮者の一時避難場所として利用できるよう協定を締結した。

課題②：電話連絡の不通

既存の連絡網が固定電話で作成されたものであるため、電話が繋がらないことが多い。

解決方法：連絡網の再整備

円滑な連絡体制がとれるよう、連絡網に携帯電話の番号も追加した。

3) モデル組織独自の取組

●要配慮者への呼びかけ

要配慮者に対し、避難を呼びかける仕組みを整えている。呼びかけの方法としては、副会長や役員が直接、要配慮者に連絡することに決めている。

町内会【三原市】中之町下町内会「防災会」

◆組織の基本情報



◆避難の呼びかけ体制（抜粋）

避難情報の入手方法	三原市防災メール／防災行政無線／ラジオ／雨量計	
呼びかけ	順番	会長⇒役員⇒ブロック長⇒班長⇒班員
	担当者不在時の対応	次席の役員が順に対応
	タイミング	警戒レベル3
	範囲	全世帯
	優先度	要配慮者
	方法	SMS（ショートメッセージサービス）／電話／戸別訪問
	内容	1人での避難が困難な方は、近所の人たちと一緒に避難してください。
完了確認	—	
他団体との連携	中学校	

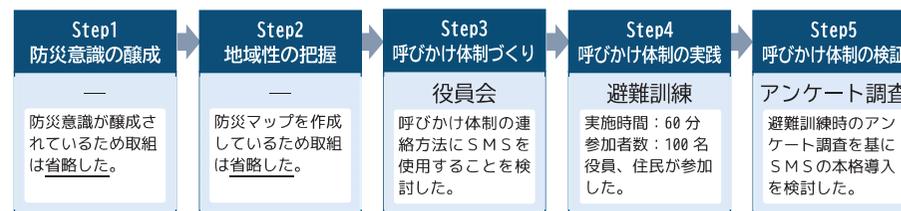
◆呼びかけ体制づくりに向けた取組

組織の特徴

- 地域内の中学校と連携し「防災キャンプ」を開くなど、数ヶ年にわたり継続した防災活動を活発に実施しており、地域の防災意識も醸成されている。
- 地域独自の防災マップを作成しており、全戸配布かつ、地域内の目立つ場所にも掲示している。



1) 実施した取組



2) 体制づくりで明らかとなった課題と解決策

課題：連絡手段

土砂災害警戒区域等に住む世帯が多いため、効率的に呼びかけを行う手段が必要である。

解決方法：SMSを用いた情報伝達

避難訓練時に一斉に避難を呼びかけることができるSMSを試験的に利用し情報伝達を行った。呼びかけの方法としては訓練参加者の8割が肯定的であったため、今後は本格的に運用を検討していく。



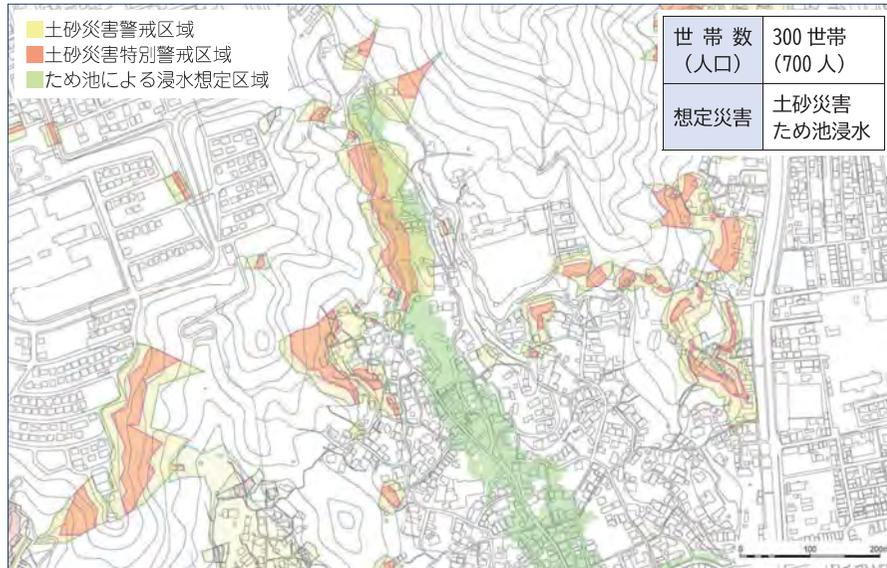
3) モデル組織独自の取組

●中学校との連携

自主防災組織と地域内の中学校が連携し、中学生・教員参加の防災キャンプを開催している。キャンプのプログラムには、HUG（避難所運営ゲーム）、クロスロードゲーム、ワークショップなどを取り入れ、地域の防災意識向上を図るとともに、将来の地域防災を担う人材も育成している。



◆組織の基本情報



◆避難の呼びかけ体制（抜粋）

避難情報の入手方法	尾道市安全・安心メール/テレビ	
順番	会長⇒副会長⇒副書記他⇒班長⇒班員	
担当者不在時の対応	次席の役員が順に対応	
タイミング	警戒レベル3	警戒レベル4
範囲	全世帯	
優先度	災害想定区域内およびその周辺の班員	夜間は班長まで伝達
方法	電話/戸別訪問	
内容	災害の危険性を周知し避難を強く呼びかける。	
完了確認	班員名簿と避難所の名簿を突合	
他団体との連携	—	

◆呼びかけ体制づくりに向けた取組

組織の特徴

- 土砂災害警戒区域等（急傾斜地）が点在し、ため池の決壊による浸水が懸念される地域である。
- 古くからある集落であり、結束力も強く年1回の定期的な避難訓練を実施している。

1) 実施した取組



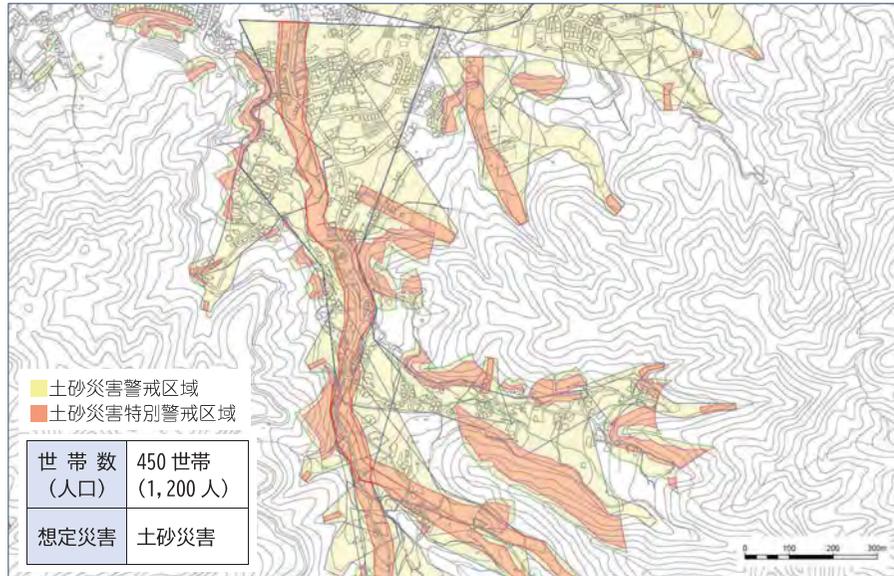
2) 体制づくりで明らかとなった課題と解決策

課題：避難所の収容可能人数 避難所に指定されていた中学校が災害の危険性があるため、避難所としての利用が不可となった。 加えて避難所として指定されている施設の収容可能人数が不足していることが分かった。	解決方法：新規避難所の確保 尾道市が採用している「うちの避難所登録制度」を活用し、対象施設と協議を重ね、新たな避難先を確保した。
--	--

3) モデル組織独自の取組

●班別防災マップの作成
災害図上訓練の実施により、地区内の危険箇所を把握した。また、班ごとに危険箇所の在住者を「防災マップ」により整理し、避難を強く呼びかける範囲を確認した。

◆組織の基本情報



◆避難の呼びかけ体制（抜粋）

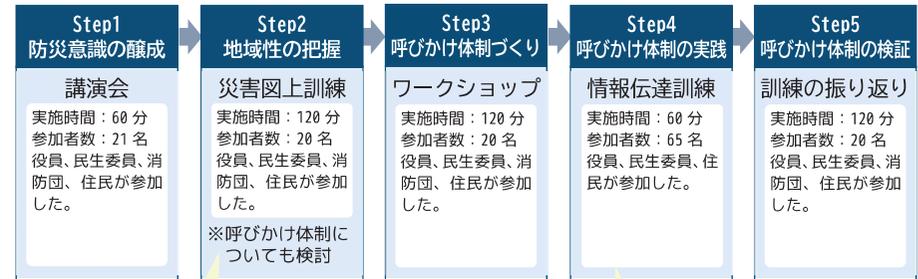
避難情報の入手方法	海田町防災メール/テレビ/インターネット/ラジオ
順番	会長⇒副会長・ブロック長⇒班長⇒班員
担当者不在時の対応	事務局などの組織役員や次年度班長が代行する。
タイミング	警戒レベル3
範囲	全世帯
優先度	要配慮者
方法	電話
内容	災害もありましたので避難をしてください。
完了確認	班長⇒副会長・ブロック長⇒会長（呼びかけの順番と逆順に報告）
他団体との連携	民生委員/消防団

◆呼びかけ体制づくりに向けた取組

組織の特徴

- 毎年防災訓練を実施するなど、定期的に活動している。
- 地域の大半が土砂災害警戒区域等であり、指定避難所までが遠い。

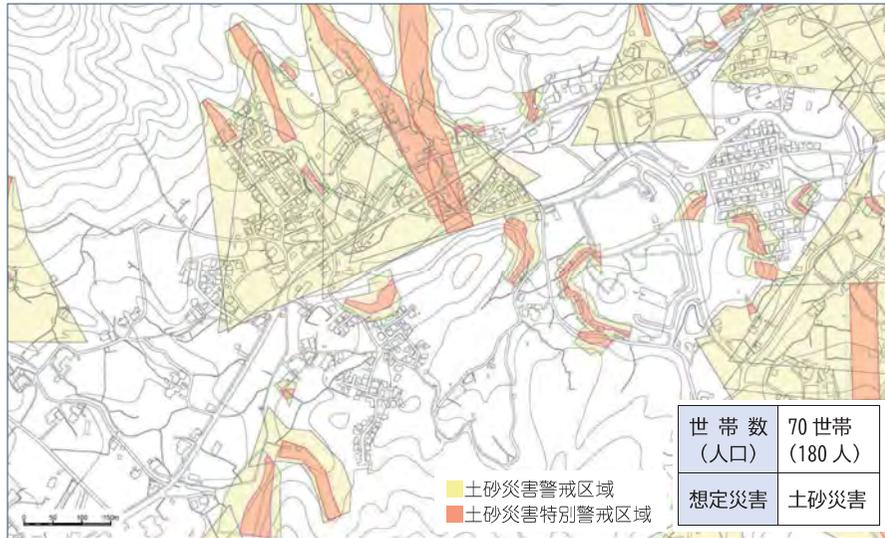
1) 実施した取組



2) 体制づくりで明らかとなった課題と解決策



◆組織の基本情報



◆避難の呼びかけ体制（抜粋）

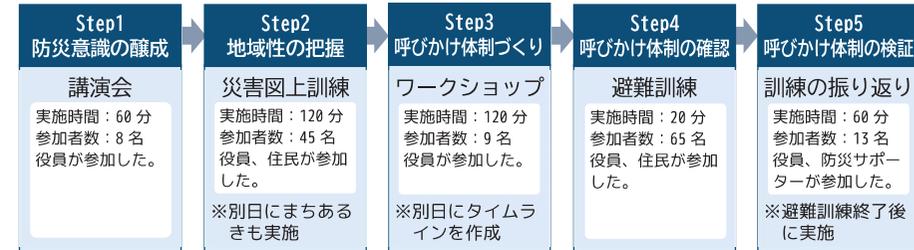
避難情報の入手方法	町から会長への電話連絡／テレビ／インターネット／町内放送	
順番	役員一斉連絡⇒住民	
担当者不在時の対応	防災サポーター	
タイミング	警戒レベル3	警戒レベル4
範囲	要配慮者	全世帯
優先度	高齢者・一人世帯	—
方法	電話／LINE（役員間のみ）	
内容	避難情報が発令されたので避難しましょう。一緒に避難しましょう。	食料や避難グッズをもって避難しましょう。
完了確認	各地区の役員が連絡し合う。／緊急連絡網と避難者を突合する。	
他団体との連携	—	

◆呼びかけ体制づくりに向けた取組

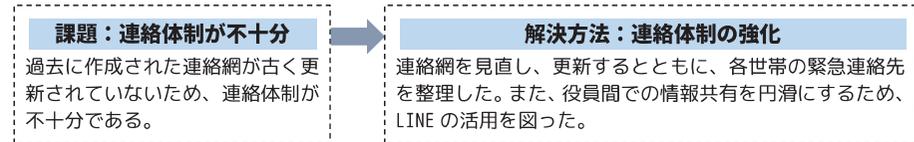
組織の特徴

- 発足したばかりの自主防災組織であり、防災活動の経験がほぼ無い。
- 団地全体が土砂災害警戒区域等に指定されている。

1) 実施した取組



2) 体制づくりで明らかとなった課題と解決策



3) モデル組織独自の取組

●防災マップ、タイムライン、防災カードの作成

現状の呼びかけ体制を確認し、災害図上訓練、まちあるきの気づきを基に、防災マップの作成を行った。また、「どのようなタイミング」で行動を開始し、「住民にどう動いてほしいのか」、「組織としてどのように動くべきなのか」を時系列に整理するとともに、全住民に防災カードを配布し、避難の際持ち歩くよう周知した。 ※防災カードの様式は51ページに掲載しています。

